

令和元年度第3回 安城市総合計画審議会 議事要旨

日 時	令和元年10月16日（水） 午前10時～11時55分	
場 所	安城市役所本庁舎3階 第10会議室	
出席者	委 員	加藤研一会長、榑原喜栄子副会長 飯尾歩委員、安田孝美委員、久恒美香委員、大谷利夫委員、 加藤宣子委員、神谷明文委員、戸田こず恵委員、野上三香子 委員、深谷誠委員、菊智ゆき委員、宮澤和枝委員
	事務局	市長、副市長、教育長、企画部長、行革・政策監、 関係部長級幹部・課長、企画情報課長、企画情報課職員
次 第	1 市民憲章唱和 2 市長あいさつ 3 議題 (1) 第8次安城市総合計画（後期計画）の素案について (2) 第2期安城市まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案について 4 その他	

1 市民憲章の唱和

2 市長あいさつ

皆様、おはようございます。

本日はたいへんご多用の中、総合計画審議会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

本日の審議会では、第8次総合計画の後期計画及び第2期総合戦略について、前回の審議会委員の皆様からいただきましたご意見等を踏まえ、事務局において修正した素案を提示させていただきます。

また、総合計画、総合戦略ともに将来人口の推計を掲載してまいります。本市の人口が今年1日現在で190,007人となりました。18万人を超えたのが平成22年2月でしたので、およそ9年半で人口が1万人増えたという状況であります。ご承知のとおり、我が国全体を見ますと既に人口減少社会に突入しておりますが、本市においては、自動車関連企業の堅調な業績によりまして、現在も人口増加が続いております。

このため、前回の審議会でお示ししました将来人口の推計につきましては、上方修正させていただきたいと考えております。

この後、骨子案から素案への修正点について担当から説明させていただきますが、本日の審議会での審議を経て、今後はパブリックコメントによる意見募集の段階へ移ってまいります。従いまして、パブリックコメント前の審議は、実質今回が最後となります。

ので、様々なお立場から、忌憚のないご意見をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

以上、私からのごあいさつとさせていただきます。

本日のご出席、誠にありがとうございました。

### 3 議題

#### (1) 第8次安城市総合計画（後期計画）の素案について（事務局説明）

##### 【加藤研一会長】

ただいま、事務局から議題1「第8次安城市総合計画（後期計画）の素案について」説明がありました。ご意見ご質問がございましたら、発言をお願いいたします。

##### 【深谷誠委員】

質問です。今回8ページの「本市を取り巻く社会情勢」で、「今後注目すべき“機会”と“脅威”」として「産業構造の変化」を入れていただいた。これはAIやIoTで社会構造や産業が変わっていく、と書いてあるが、前のページの「人口の変化と健康寿命」でも「新たな社会“Society5.0”」があり、ここでもAIやIoTで社会が変わっていくと書いてあります。表題は違うが骨子としてAIやIoTで社会が大きく変わっていくことであり、少しダブっていると思います。「新たな社会“Society5.0”」を「人口の変化と健康寿命」に載せた意味を教えてくださいませんかと思います。

##### 【企画情報課長】

委員のご指摘は、「産業構造の変化」の記載内容と前のページの「新たな社会“Society5.0”」の記載内容が少し重複しているというところかと思います。「産業構造の変化」の部分では、冒頭で未来技術のことから記載を始めており、それを受けて、この地域の基幹産業、自動車産業のCASEへの対応だとか、そういうところも産業構造の変化の中には記載をしたつもりです。少しICTあるいはSociety5.0のところは重複の感はありますが、ここに記載した趣旨としては、産業構造の変化を機会と脅威の両面から捉えて掲載したものです。

##### 【菊智ゆき委員】

私からは3点あります。まず1点目、63ページの施策方針(2)②で「滞留できる憩いの空間を創出して」とあります。現在の総合計画書には無かったので後期の計画で新たに追加されたと思います。何か具体的な意図や活用方法などをお考えであればお聞かせいただきたいです。

##### 【都市整備部長】

63ページのご質問にお答えいたします。このページでは、各拠点となる駅周辺のまちづくりについて整理をしています。中でも、三河安城駅周辺について、そのまちの特徴としましては、高層マンションが多いこと、商業業務系の立地が目覚ましいこと、いわゆる定住者からオフィスワーカーまで幅広い人々が集うまちに成長しています。また、

駅が開業して30年以上が経過し、連絡通路や歩道など公共施設も老朽化し整備が必要な時期を迎えつつあります。そんな背景の中で、三河安城駅周辺のまちづくりについては、単なる土地の高度利用だけに留まらず、多様な人々が集うまちの特性を活かして、駅前広場やツインパークなど公共空間を中心にまちの使い方について、多様な多くの皆さん、担い手となる皆さんと連携して、公共空間の積極的な活用を今後考えていきたいという理解をお願いします。

#### 【菊智ゆき委員】

ありがとうございます。2点目、65ページの施策の方針(1)③に「災害時の情報伝達手段の強化を図ります。」とあります。現在の市民の皆さんへの情報伝達手段にはどういったものがあるのか、できれば全部教えていただきたい。今回の台風19号でもいろいろな被害が出てしまい、逃げ遅れた方が何人かいらっしゃいました。情報を伝達するだけではなくて、そこからのアクションが浸透していないとまずいと今回の台風の時に思いました。この辺りを少しだけお聞かせいただきたい。

#### 【危機管理監】

質問については2点いただいたと思っています。1点目は情報伝達手段、2点目はその情報伝達をどう使っていくのかということ。まず1点目につきましては、現在の情報伝達手段としては、緊急速報メール、エリアメールというもの。これは国土交通省が、水位が上がったことによって逃げる方に携帯の電波を使って皆さんにお伝えするプッシュ型のものです。それからヤフーの防災速報、これは防災アプリがありますので、ご自分で入れられるといろいろな情報が入ってきます。それから防災ラジオ、これは市で販売をしています。緊急的な避難などの情報を、防災ラジオを通じて皆さんにお知らせしています。それから安全安心メール、これも市に登録していただくと防災情報、防犯や交通安全等のメールが届きます。高度通信情報システムLアラートというもの、あとは市公式ウェブサイトで、ご自分で見ていただくもの、またはFacebook、Twitter、LINE、広報車、消防団の巡回などがあります。

2点目の情報伝達手段をどのように活用していくかということになりますが、情報伝達につきましては自助・共助・公助というものが非常に重要になってくる、特に自助・共助ということになります。まずは自助において、住民一人ひとりが、自分で防災の情報を取りに行く、ホームページ等で市が発信している情報をご自分で取りに行く、雨が降ってきたら自分から情報を仕入れて、矢作川の水位情報、安城市の河川情報などをホームページで公開していますので、自分から見て、自分で避難のタイミングなどを考える、自助が一番重要だと思います。こういう点が足らないと逃げ遅れにつながると思います。もう一つは共助が一番重要です。隣近所の助け合い、自分で逃げようと思っても一歩が踏み出せないとき、隣近所または市、消防団から声をかけることによって一緒に逃げて助かる方もたくさんいます。そういう意味でも共助は大事です。共助の取組の一つとしては、手作りハザードマップというものを市内各地で作っています。特に、今年は

矢作川沿川の小川の4つの集落で、住民とともにマップを作っています。手作りハザードマップは、市民自らが自分たちの地域を歩いて、どこが危険なのか、どこが安全なのか、どこの避難所にどのように逃げたらよいのか、そういう情報を皆さんで共有するものです。その地図を全世帯に配ることによって、常に見ることによって避難ができるようになります。また、それを持って避難訓練を行っており、共助の力をつける取組をしています。また、今後は、手作りハザードマップに加えて地区防災計画、安城市全体では地域防災計画があり、その地区版である集落ごと、町内会ごとの地区防災計画を今後は作っていきたいと考えています。昨年、西日本豪雨の時に、これを作って皆さんの力で全員が助かったこともあり重要です。情報伝達としては公助の取組もありますが、自助・共助も大事ですので、市としても皆さんと一緒にそういうものを作りながら共助の力を蓄えていただきたいと思います。

**【菊智ゆき委員】**

ありがとうございます。インターネットは何か起こったときに一気に集中してしまうので繋がりにくくなり、それが今回の台風でも逃げ遅れの原因の一つになった。人の手、人の声が、最後は人の命を助けると私も思います。ネットでは5Gの通信技術もありますので、その辺りも考えていただくと良いと思います。

最後、82ページの(3)に「歳入確保と適正な予算執行」とあり、その中にふるさと納税の記載があります。話題にもなっていますが、さとふるで安城市の納税をみると返礼品が載っています。安城市の現状と今後の展開をどのように考えているかお答えいただけますでしょうか。

**【総務部長】**

ふるさと納税について、平成30年度の実績は、寄付額3,500万円余、寄付件数は延べ2,900件余となっています。返礼品としては、ユーハイム等の地場産品に加えて、平成30年度からは新たに体験型の返礼品としまして、デンパークの入園チケットやソーセージづくり体験チケットを提供し始めたほか、空き家点検やお墓の清掃サービスをシルバーさんをお願いすることなど、多角的な返礼品も進めています。しかし一方で、安城市民が他の自治体にふるさと納税で寄付した人数は7,300人余、寄付額は7億7,700万円余となっています。ふるさと納税に係る税額控除による本市の市民税への影響額は3億5,700万円余が減収となっており、これに返礼品の調達費が1,700万円余かかっているため、安城市のトータルでは3億4,000万円程度の赤字になっている状況です。このため、さらに返礼品を充実していくとともに、本市の返礼品をいかに知っていただくかということが重要な課題であると認識しています。

**【菊智ゆき委員】**

ありがとうございます。さとふるのランキングを見ると1位は北海道のホタテです。その他に北海道のお米や茨城のお米、奈良のお米も人気です。お米と言えば安城市も、とても美味しいものがたくさんあります。そのPRも一緒にさせていただけたらと思っ

ています。ありがとうございました。

**【宮澤和枝委員】**

私からも3つ質問します。46、47ページにスポーツの記載がされていて、今年ソフトボールのインカレがあり、来年度以降も継続するというので、同じ大学生なのでとても興味深いと思っていました。前回の会議で、市長さんのあいさつでソフトボールの聖地として親しまれるまちにしていく、といったお話があったと聞きました。そのための盛り上げ方法などがあれば教えていただきたいと思います。

**【生涯学習部長】**

委員も同じ年代の女子大学生ということで、関心を持っていただきありがとうございます。今回のインカレでは、全国から32の大学に参加していただきました。1試合当たりの観客数は約400人、決勝戦では720名ほどの観客が入りました。臨時の駐車場として新田小学校、中部小学校を開放して、車のナンバーを見ると関東方面、関西方面、中国方面の車が多く、自家用車で応援に駆け付けた家族も多く、駐車場の問題もたいへん重要な取組と感じています。来年度以降の開催に向けた取組としましては、試合会場、グラウンドのコンディション作りがまず重要となります。そして、おもてなしの部分、市が担う部分ですが、会場周辺の装飾や案内看板の設置をしっかりと行い、来場者の会場までのご案内を充実し、最高のグラウンド、最高の応援環境づくりを行っていくことで、試合会場にお越しいただいた方に満足してもらえようようにしていきたいと思っております。選手、ご家族の応援、そういう方々の満足が高まれば、聖地としてステップアップしていけると理解しています。試合の合間に、安城市の観光・物産の紹介ブースも用意しました。関係部署とも連携して、それらの充実を図るとともに、家族の方々がまちに繰り出していける、観光につながるようなご案内を、関係部署と連携を保ちながらやっていけたら、より良い大会運営になると思っております。主催者の全日本大学ソフトボール連盟の役員も、安城市での5年間の開催の中で、いろいろなチャレンジをした運営に取り組んでいきたいと思っているので、地元としても、おもてなしをしっかりと支えていきたいと思っています。

**【宮澤和枝委員】**

ありがとうございます。2つ目の質問です。78、79ページに学校教育の記載があります。最近では教員の労働時間、働き方の問題をテレビのニュースなどで見かけます。安城市でも、教員の働き方改革の取組をしていたら教えていただきたいです。

**【教育振興部長】**

教職員の多忙化については、ニュースや新聞でも取り上げられていて、安城市でも平成30年度より多忙化の要因や課題を洗い出し、先生の負担をどのように減らしていくか、どうすることが子どもたちに良いのかをよく話し合いながら、安城教育充実プランを作成して取り組んでいるところです。その中で、教員が従来持っている仕事の中で、教員本来の仕事でないものを見直し、具体的には、学校施設開放事業は、スポーツ課へ

移管し、学校の負担軽減を図ったり、絵画などの作品募集など学校への募集手順の簡素化を依頼して、教員の負担を軽減したり、部活動では部活動指導員を配置し、顧問を務める教員の負担軽減を図っています。生徒の健康管理のために行ってきた朝の部活動を取りやめたことも教員の負担軽減になり、働き方にも良い影響を与えています。

**【宮澤和枝委員】**

ありがとうございます。最後の質問です。70、71ページに記載がある生涯学習について、私はアンフォーレを大学の課題などで利用させていただくことがありますが、利用者をさらに増やすために新しいサービスなどを考えていれば教えていただきたいです。また、2023年にアンフォーレが5周年を迎えますが、記念イベントなどを企画されていたら教えていただきたいです。

**【市民生活部長】**

アンフォーレにつきましては、入館者数が非常に増えており、旧図書館の時代の2倍以上になっています。図書館の平成30年の1日当たりの平均入館者数は2,677人で、旧中央図書館は昭和60年から平成28年までの平均で1日当たり1,300人でしたので、2倍以上の数字になっています。また、近年は減少傾向にあった貸出冊数も上昇に転じています。ご質問のありました、今後の利用者を増やしていく方策につきましては、71ページの施策の方針(4)「図書館サービスの拡充」をもって、利用者を増やす方策を考えています。その中で、特に、②のレファレンスと呼ばれる資料相談サービスを拡充して、市民の課題解決を一層支援していきます。そのためには、専門職員のスキルアップに努めていきます。2番目の質問の、アンフォーレの5周年記念イベントにつきましては、市政70周年記念イベントと重なるため、現在のところ考えておりますのは、第3回の新見南吉絵本大賞の開催、加えて、新たな南吉顕彰イベントなどを検討しており、もちろんアンフォーレ5周年感謝祭も開催していく予定です。

**【榊原喜榮子副会長】**

17ページの土地利用について、前回の会議で、北部地区の産業ゾーンの追加の質問をしました。その時に、差し当たり今すぐ工業団地にする計画はない、とお答えをいただいたような気がします。しかし、近い将来ではないか、と私は憶測しました。そうした中で、まとまった農地をいずれは手放さなくてはならない担い手さんが出てくると思っています。そのような時に、農地を失う担い手さんに対して、市は何かしらの対策を考えているのか、その辺りのお話をお聞きしたいと思います。

**【企画情報課長】**

前回、土地利用構想の中で、新たに産業ゾーンを追加していきたい、とご提案をさせていただきました。それに対するご意見だと思います。1つ目は、現時点では工業団地の計画はない、と申し上げましたが、近い将来はあるのか、とのご質問だと思います。現時点では、将来的に市として工業団地を整備していく考えは、今のところございません。ただ一方で、市の持続可能な成長発展や安定的な税財源を確保する上で、何らかの

企業立地の必要性は今後もありますので、そうした時に、企業立地を進める上で、ある程度まとまった規模の工業団地を、何らかの手法で市の中に誘導していく必要性は今後もあるかと思っています。時期については、現時点ではまったく白紙ですが、そういう事業や方策については、引き続き、市としては研究や検討は必要だと考えています。それから、2点目の、仮にまとまった農地が工業用地に転用された場合の担い手への対応についてですが、これについても具体的な事業計画があるわけではないので、私の立場ではなかなか申し上げることはできませんが、例えば、現在榎前地区の工業団地では、地域の農家のご協力をいただきながら事業を進めています。その際には、農地の面積としては、10haから20ha弱の農地が失われますけれども、引き続き周辺農地において、農業を営まれる営農さんに対して、農業生産基盤の改善であったり、土地改良事業的なものを行うことによって、土地生産性を高めていくことが、市としてできることだと思っていますので、将来的に工業団地の事業が行われる折には、あわせて農業生産基盤の整備であったり、担い手への支援は必要だと思っています。

**【榎原喜栄子副会長】**

ありがとうございました。市と農業者との信頼感が壊れることなく、いろいろな施策を考えていただいて進めて欲しいと思います。

もう1点。48ページ、環境問題の「現状と課題」の現状についてです。世界的に廃プラスチックの問題が起きており、環境が汚染されています。現状に至るまでには、長い年月をかけて、私たちが便利を追求した故の世界の現状ですが、早い時点で、それなりのことを考えていかななくてはなりません。次の時代の皆さんのためを思えば、私たちが今から少しずつでも行っていくべき問題だと思います。市としては、そのようなことはお考えでしょうか。

**【環境部長】**

廃プラスチックのお話です。昨今、新聞やテレビで賑わっている話題で、プラスチック、特にペットボトルやストローが当てはまります。七夕まつりでも、使い捨てのそういった材料が随分と使われており、私たちも呼びかけをして、削減をお願いしてきました。見えるところからやっつけていかななくてはなりません。今日も会議でペットボトルのお茶が出ていますが、海洋汚染につながるのは不法投棄をしてしまうことで、きちんとリサイクルのルートに乗せないで排出をしてしまうことが原因です。日本よりも実は外国の方が多なのが現状です。我々にできることは、まずは使わないことも大事で、そういったPRをさせていただきたいと思っています。それから、きちんと回収ルートに乗せていただくこと、その辺りを、特に七夕まつりなどのイベントでPRをしながら、使い方や始末の仕方を見えるような形で進めていきたいと思っています。

**【榎原喜栄子副会長】**

ありがとうございました。安城市ではごみ分別、ごみゼロに向けて、市民と行政が一体となって頑張ってきて、ごみも減り、分別も皆さん身につけてきた、と感じるところ

です。これをずっと続けていけたらと思います。ありがとうございました。

**【神谷明文委員】**

66ページの地域福祉のところですが、現状の分析のところは概ね良く書けていると思います。安城市は各中学校区に福祉センターが整備されていて、地域福祉の拠点が先進的に整備されている状況があります。そこにさらに地域包括支援センターをつくることは、今まで地域福祉の拠点のなかった地域にとっては重要なことですが、安城市は既に各中学校区に福祉センターが存在するので、そのことを現状分析に強調して書いても良いと思います。

69ページの社会保障の(4)高齢者の生きがいと地域支援について、②の「健康で生きがいのある生活の実現を目指します。」というのは結構ですが、その下の成果指標の3つ目で「住民主体の生活支援サービス」の最後のところに「高齢者の参加できる通いの場を充実させるとともに、高齢者のいきがいつくりを行います。」と書いてあります。「いきがいつくりを行います。」は役所が言う表現としては筆が滑ったのではと思います。「健康でいきがいのある生活の実現を目指します。」という表現なら良いと思います。ご検討をお願いします。

**【福祉部次長】**

まず、66ページの福祉センターの表記が現状分析になかったことについて、包括と福祉センターが連携して対応をしている状況ですので、何らかの表記の変更をしたいと思いますので、よろしくお願いします。

それから、69ページの指標で「高齢者のいきがいつくりを行います。」という記載については、「いきがいつくりをする場の提供をします。」という表現に修正したいと思いますので、よろしくお願いします。

**【加藤研一会長】**

65ページです。施策の方針(2)②の「自主防災組織の充実強化」について、その具体的な方策として、私は9月に県の防災会議に出たのですが、県では防災カレッジで防災士や防災リーダーの育成に努めています。ついては、こういう資格を取った人、卒業生の活用を、各市で考えてもらって支援につなげてほしいと話がありました。私も町内会長として自主防災活動が8年目となり、防災士や防災リーダーの新たな市民の活用が必要だ、と常々考えていました。自主防災組織に直接配属ということではなくて、もう少し広い範囲で中学校区、小学校区の幅広い組織の中で配置していただいて、それを各自主防災組織が活用するという形でも良いと思います。今いるスタッフだけではレベルアップということも難しいし、町内会の負担の軽減からも防災士、防災リーダーを活用できるような仕組みを市として考えて欲しいというのが私の考えです。

**【危機管理監】**

防災士や防災リーダーの活用ということで、本市では各自主防災組織から推薦いただいた方に、数回の講習を受けていただきながら防災リーダーとなっただき、また、

それを持ち帰って、各自主防災組織のリーダーとなっただけのように、町内会長だけではなく、各役員さんや意識の高い方に防災リーダーになっていただきながら、自主防災組織を引っ張っていただき、安城市ではそういう仕組みを持っています。今年度も何十名かに防災リーダーの講習を受けていただき、来年度以降はそのような形に持っていきたい、と考えております。ただ男性が多いので、女性にもなるべく参加していただくよう今後は考えていかななくてはならないと思っています。防災士については、安城市内において、NPOから市内で防災士の資格を持っている人のリストはいただいておりますが、多くの方が現在自主防災会で活動している方で、あとの方は、資格を取ってみようかな、という方やたまたまそういうことに携わっている方で、今はあまり活動をしていない方の両極端だと思います。全国では、防災士を集めた形において派遣をしながら活動していただくような組織も各県、各市町に若干はありますが、安城市においては、防災リーダーになっていただいた方がかつ防災士の資格も取っていただいて、各自主防災会で活動をしていただくことが理想だと考えています。防災リーダーの活用は今後も引き続き考えていきたいが、防災士についてはそれに付け加える形で考えていますので、ご理解をよろしくお願いします。

#### 【加藤研一会長】

私が申し上げた防災リーダーは、市の養成研修で教育される防災リーダーとは違い、県の防災カレッジを卒業された方のことです。市の自主防災リーダー養成研修は、もともと町内会から派遣される人が評議員であったりして1年、2年で代わってしまいます。ずっと自主防災組織の中で活躍してもらえれば良いのですが、評議員が主体なので評議員の任期が終われば終わってしまうことが問題です。それと違って、県の防災カレッジを出た防災リーダーは、やる気があって申し込む方なので、その方たちを活用して欲しいというのが県の考え方だと思います。

#### 【菊智ゆき委員】

60ページの観光です。安城市にはたくさん良いところがあるが、この観光のページを見ると、デンパークか七夕まつり、本證寺、丈山苑くらいです。デンパークの中にオープンしたおしゃれな子ども用の遊具など隠れた良いものがたくさんあるが、発信されていないことがもったいない。杉浦庄衛門さんや中川覚衛門さん、安城市には本多正勝さんなどの偉人もいらっしゃいます。画家の神谷さん、もちろん新見南吉もそうですけど、そことデンパークもあまりつながらないし、同じ童話なのに、童話のまちと言って良いほどにいろいろな方がいるのに。都築弥厚さんもそうです。個々でピックアップされることはあるが、歴史や文化を勉強するとか広める意味もあるが、全体的にばらついている。安城市が芸術や文化や歴史に少し疎いことがあるので、観光に力を入れるポイントとして市民の声を汲み上げていただけると嬉しく思います。

#### 【産業振興部長】

ご指摘のとおり、私どもも安城の観光資源を活かしきれていない、と思っています。

ある方に話を聞いたところ、観光戦略は、まずは1点豪華主義が大原則ということですが、安城市は種類の違うものをたくさん盛り込んで、ごった煮になってしまっているというのが個人的な感想です。七夕まつりが県外からも人が来る背骨だと思っていますので、安城市の観光の背骨が何かというところから、観光資源を枝葉でどうつなげていくかということ、商工課が中心となって、市全体のシティープロモーションとして企画情報課も動いていくので、大きな課題として時間をいただきながら整理をしていきたい。近いところでは、今の観光資源のブラッシュアップは手を入れていきたい。計画が明らかになるようなときには、ご意見やご提案をいただく機会を設けていきたいと思っています。まだ具体的ではありませんが、今後検討していきますので、よろしくお願いします。

#### 【菊智ゆき委員】

安城市内にもクリエイティブな方がたくさんいるので、その辺りにもご注目いただいて、何か楽しいことができて、全国に安城市ってこんなところだよって言えるように、私たちがさせていただきます。ありがとうございます。

#### 【加藤研一会長】

町内会の立場からの話です。安城市とは、重要なパートナーの関係にある町内会に対する考え方が、この総合計画の中には少ないと思います。町内会も、機会と脅威の1つではないかと感じました。町内会は、上手く活用すれば安城市の目標を達成するためのプラス要因になりますし、加入率が低下して弱体化すればマイナス要因にもなります。一方で、福祉委員会や自主防災会などの果たす役割、期待は増すばかりです。こうした福祉委員会や自主防災会などは、いずれも町内会がしっかりしていてこそその組織であり、こうした点への配慮をお願いしたい。ボランティア活動、市民参加、市民協働などいろいろな動きがありますが、町内会ははじめ老人クラブや子ども会など、各種団体の役員人材の不足、役員になりたくないために加入しないなどの動きもあります。町内会との連携によるコミュニティの強化の必要性も高まってくると感じていますので、適当な場所で、このような項目についても追加していただけたら、安城市の発展のためにも良いのではと思います。

#### 【企画情報課長】

8、9ページ、機会と脅威につきましては、国内、国外を問わず社会経済情勢の変化など外的な要因についてプラス面、マイナス面から記載をしています。町内会の果たす役割、福祉、教育、防災、まちづくりなどいろいろありますが、私が申し上げるまでもなく、その重要性は認識しています。総合計画の中では、75ページの「参加と協働」の施策の方針(2)「地域活動の支援」として、町内会活動の支援については記載をしています。改めまして、地域コミュニティの活動は、市のプロジェクトとしても、地域の活性化の観点からも重要ですので、例えば、34ページ以降に重点施策「健康都市推進プロジェクト」を掲げているので、「健康都市推進プロジェクト」の3つ目、まちづくりのところ、39ページ「市民とともにつくる持続可能なまち」の中に、地域コミ

ユニティや市民活動の記載がありますので、この中に記載を追加していくことを検討していきたいと思います。

**【加藤研一会長】**

ありがとうございました。従来からも支援をいただいていることは認識していますが、住民意識が変化していることを、実務を担当していると思いますので、今以上に関係を強化し、支援を充実していくことを表現してもらえるとありがたいと思いました。

**【安田孝美委員】**

冒頭に説明のあった変更箇所について、前回の私たちの意見に対して非常に真摯に対応いただきました。

28～32ページのSDGsの関連性もわかりやすくなっています。色を多く使っていて見やすい形になっていると思います。44ページ以降に5つの色で表記をしていますが、例えば、45ページは健康に関する部分ですので「健康」の丸を少し大きくしてわかりやすくすると良いと思います。テクニカルの部分ですが、ご対応いただければと思います。

それから、総合計画の枠を超えて、市政全般についてコメントさせていただきます。

はじめに59ページの商工業について、「子育て女性の再就職」と女性を強調されている部分がありますが、子育てには最近では男性の視点もありますので、配慮されると良いと思いました。(4)「創業支援の推進」では、「創業を促します。」と書いてありますが、会社の中でも兼業が認められるケースが多くなり、社内ベンチャーもどんどん出てくるのではないかと思います。その中で、安城市としてベンチャーをどう育成していくかという中で、ベンチャー・キャピタルはありますが、最近ではCVC、コーポレート・ベンチャー・キャピタルと言って、会社がベンチャーを支援する仕組みが出てきています。こういったものを、安城市がどう考えるかを検討いただけるとよろしいかと思います。

61ページの観光について、これまでは経験と勘による観光政策が一般的でしたが、これからはデータに基づく観光政策を考えないといけないと思っています。それができる時代になってきています。データに基づく観光政策に取り組んでいただけると良いと思います。

63ページの都市計画では、政府はスーパーシティ構想を打ち出しています。これは20世紀型都市計画からの脱却を意味しており、これまでは土木、交通の専門家が都市計画をしてきたのですが、スーパーシティ構想では情報の役割が非常に大きく関わってきます。安城市でも、今後の都市計画を考える中で情報の役割をしっかりと入れて、スーパーシティ構想に見合うような改革をしていただけると良いと思います。

67ページの福祉では、今後は独居老人が増えていきます。その中で市として何をするかということですが、情報機器のスマートスピーカーを独居老人のお宅に置いて、毎朝元気かどうかを確認し、3段階での見守りができるというものがあります。この辺りも考えていただけたらと思います。

75ページの参加と協働では、消費税が増税されて現金ではない決済が有利な条件が生まれています。現金で決済しない若者世代は優遇を受けられるが、現金で払われる方は利益を受けられない。デジタルデバイドの高齢者は紙でやればよいという議論もありますが、それだと不利益がずっと続くことになる。どうすればよいかというと、ICTもコミュニティにボランティアを置くことを、安城市でも今後考えたらよいと思います。現役時代に情報機器を使っていたビジネスパーソンはいると思いますので、そういう人に少し講習を受けていただいて、安城市がICTサポーターという称号を与えて、地域でお困りのデバイドの人を助ける仕組みがあっても良いと思います。

77ページの子育てでは、保育士を確保して保育環境を整備していくことが書かれていて、これは大事なポイントで正しいですが、もう1つ踏み込んで、「全国一恵まれた保育士環境」ということを考えていただけると良いと思います。保育士や介護士の勤務状況は過酷だということは皆さんご存知のとおりですが、優れた保育士環境として収入や業務内容を確保すると、全国から質の高い保育士が集まってきて、質の高い保育ができます。そうすると、親も安心して預けることができ子育て環境も良くなります。こういったことも、将来的には考えていただきたいと思います。

最後に84ページのスマート自治体の推進についてです。これまでは市役所の情報化、電子行政を考えるとときには、市役所に来られた方へいかに効率的にサービスを提供するか、ワンストップサービスや待たせないサービスなどを考えてきました。しかし、そもそも市役所には来たくないんです。サービスが受けたいんです。市役所に来なくても良いようなサービス、アプリですべてできるサービスを目標として考えていただけるとよろしいかと思います。

**【加藤研一会長】**

安田先生、幅広いご指導をありがとうございました。

ご意見も出尽くしたと思いますので、本日皆様から出された意見を踏まえて、次回の審議会でパブリックコメントにかける計画案に反映していただきたいと思います。以上で、議題（1）「第8次安城市総合計画（後期計画）の素案について」を終了します。

**（2）第2期安城市まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案について（事務局説明）**

**【加藤研一会長】**

ただいま、事務局から議題（2）第2期安城市まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案について、説明がありましたが、ご意見やご質問がございましたらご発言願います。

**【深谷誠委員】**

まち・ひと・しごと創生総合戦略では、いつも創業について質問させていただいています。今回23ページに「観光と連携した商業の振興」の中で、KPIに「創業者数」があります。2018年の基準値が159人で、5年後の目標が160人です。これは総合計画ともリンクしていて、総合計画の59ページにも「創業者数」があり、201

5年が81人で、2023年の目標値が160人となっています。総合計画を見ると伸びしろがあるから、まだ一生懸命やらないといけないと思うが、総合戦略で基準値が159人で、5年後の目標が160人であると、創業の重要性は高まっているが、もう少し安城の個性を生かして、ひと・もの・かね・情報が集まる安城市なので、もう少しストレッチな目標にしても良いと思います。今は、倒産は少ないが廃業している方、隠れ倒産が非常に増えていて、新しい産業構造への変革という話があったが、新しい産業構造の中で、既存の事業が立ち行かなくなっているお客様がたくさんみえて、第2創業という形で、違う分野での創業にチャレンジするお客様も増えていきます。そういった意味では、せっかくABCというインフラがあるわけですので、創業者数の目標は強い希望を持てる数値にしても良いのではないかと思います。

#### 【産業振興部長】

ご指摘いただいて数字を見ますと、ゴールが近く、もう少しゴールを先にすべきではないかとのことです。今一度担当部署と検討して、目標値について修正する必要があるかどうかも含めて検討させていただきます。ABCについては、市内向けに伴走型で個店や個人、小規模な方を支援しており、相談件数も伸びています。ただ、新規創業となるとハードルが高く、実際には、商売替えをするものや跡を継ぐ際に少し方向を変えるものを支援して、新規創業として拾っているのが現状です。市内では相談者が一巡しており、今後のABCの役割や数値目標については検討させていただきます。

#### 【飯尾歩委員】

まち・ひと・しごと創生の「創生」という言葉自体に無理があると思います。基本的には、研究者、オフィスワーカー、両方ともバランスの取れたまちであり、安城市は外から見れば羨ましいようなまち、とよく聞きます。自動車産業が転機を迎えていますので、それに対応して、今の人口が伸びているうちに手を打っていかねばいけない、脱自動車産業とまでは言わないが、自動車産業に依存しすぎているバランスを考え直さなくてはならないということもあると思います。基本的には、これからは定住者、住みよいいということ、企業誘致的にということではなく、ケンサチや環境首都もずっとやっていますが、この町に住みたいという人がどんどん来るような、この町に住んで、例えば、リニア・新幹線のリレーで遠くに働きに行くという働き方、テレワークも伸びてくる、住みよいまちに重点を置いた方が良いと思います。総合戦略では、観光戦略ということが上位に出てきますが、私は常滑市に住んでいて、セントレアもコストコも来て交流人口が増えても、住んでる人にとっては幸福度が増さないばかりか、迷惑なところもあるんです。通過をしていくだけです。誘致の仕方を間違えば、住みよさには逆効果になるし、セントレアができて消防署をつくらなければいけなくなると行政経費もかかるわけです。デンパークでも、安城市に住んでいる人が住みやすいようにもっていくのが良いと思います。例えば、外から持ってくる時代は終わったと某地方創生大臣も言っていますが、今あるものをどういうふうにも暮らしの住みやすさに生かすかという

ことが戦略だと思います。大河ドラマの舞台にとド派手な花火を打ち上げようとしても、すぐに誰も来なくなる。それは戦略ではなくて戦術だと思います。ここに住んでいる人が住みやすい、安城市に暮らしたくなるようなまち、まずは子育て環境の充実が一番です。それから老後の住みよさ。こういうことをいかに形作っていくか、まちの楽しさ、アメニティも含めて、そのようなことに重点を置いた方が良いと思います。新産業の創生というのは「言うは易し、するが難し」です。今あるものが何かと言うと、農業をもう少し上位に持ってきてても良いと思います。農業は、一次産業と言うだけあって一番基本的な産業です。そこからいろいろなことが展開できると思います。いろいろな特産品もあります。西三河には顔の見えないまちが多いが、ラグビーのおかげで豊田の駅前は大いぶ変わりました。インカレではないが、人がここに続けて来たときに魅力を感じるように。豊橋で会議があって豊橋のホテルに泊まったんです。愛知県の人豊橋に泊まることなんて無いが、そのホテルで聞いた話がとても面白かった。農業の構造が変わってきているという。全国有数の農業出荷額のまちで、キャベツなどの重量野菜が農家の高齢化が進んでやりにくくなっている。豊橋技科大に先端農業バイオリサーチセンターというものがあり、ICTの活用で農家の負担を減らし、高齢者が助かると同時に、ICTを駆使した効率的な農業、魅力ある農業をやらうとする若者が全国から集まってきて、それを飲食産業につなげているんです。ホテルの16階にメインレストランがあり「景」という名前なんです。ガラス張りの展望レストランから見える風景の中で採れる素材を8割から9割を使っている。それに惹かれてお客さんが来るし、このレストランを一度使ってみたいと思うわけです。今あるものを活用するという、それに先端技術を使う、安城も技科大を地元の大学と思ったら良いと思うが、産学連携をハード面でも強めていく、総合戦略で、まちおこしではなくて、まちの深堀をやると良いと思います。基本的には、それが地元の人々の住みよさにもつながります。金沢もインバウンドを意識したのではなくて、地元の人々が使えるような加賀料亭の店、地元の人に入ってもらえる店を大事にしています。それが外国から来た人にも、外から来た人にも魅力のあるものになると思います。無いもの探し、無いものねだりではなくて、有るもの探しの視点を総合戦略の中に組み入れていくと良いと感じました。

#### 【菊智ゆき委員】

私は三河安城駅の近くに住んでいて、しばらく東京にいて帰ってきました。そこで暮らしている住民、地域の人々が住みやすいというところでいうと、新幹線で移動することが良くあるが、この間とても困ったことがありました。新幹線の時間が30分あると何もない、座るところすらないという状態で、ビジネスマンもみんな立って待ちました。この30分で1つ仕事ができたと感じました。今、行政と民間、市民が一緒になって、東京の南池袋公園に新しくパークができたり、広島尾道では、行政と民間が一緒になっておしゃれなホテルをつくったんです。民間が行政と一緒に面白がって思い切ったことをやっていることが増えています。三河安城にもそういうものがあったら良いな

と、ツインパーク辺りには良い場所があるので、そこがきれいになると嬉しいと思います。ありがとうございました。

**【加藤研一会長】**

ご意見も出尽くしたようですので、本日、委員の皆様から出された様々な意見を踏まえ、次回の審議会で提示されるパブリックコメントに向けた総合戦略案へ反映していただきたいと思います。以上で、議題（２）「第２期安城市まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案について」を終了します。

本日の議題は以上でございます。事務局にお返しします。

４ その他

**【事務局】**

以上をもちまして、令和元年度第２回安城市総合計画審議会を終了いたします。

次回の審議会は、１１月１５日（金）午前９時３０分からを予定しております。場所は、今回同様、市役所第１０会議室になります。改めてご案内をいたしますので、よろしく願いいたします。

本日はありがとうございました。